

特集 市民の命と財産を守る 消防活動



最近救急車のピーポーというサイレン音を昼夜問わず聞くことが多くなりました。特に高齢化の進む住宅地では増えているようです。急な病気やけがでお世話になった方も身近におられ、救急車のありがたさを痛感します。そこで、今回は茨木市消防本部を訪ね、火災予防や救急業務の内容を具体的にうかがって、市民のみなさんに伝えることができたらと思います。

消防本部の通信指令室

火事や急病・けがなどの緊急時に通報する119番。この119番を受けるのが消防本部3階にある通信指令室です。ここでは年間約3万件の電話を受信します。そして、受けた出動要請は内容や場所に依りて、GPSにより要請場所に最も近い消防車、救急車を選び出動となります。また、市内の様子を市役所屋上に設置したカメラでモニターテレビに映して24時間見守っており、火災の通報があれば、自動的にその地域をモニターに表示します。



通信指令室

火災の状況

ここ数年の茨木市内の火災は、年間30件台を推移し、今年は9月末現在14件（死者1人）となっています。出火原因はこんろ、電気配線、マッチ・ライターの順で、特に秋から春にかけて多くなります。

建物の防火対策（消防設備の点検と指導）

建物には、用途と面積に合わせて備えなければならない消火設備や警報設備、避難設備が決められています。そこで建設時の指導と完成後の立ち入り検査を行っています。

はしご車

高いビルやマンションでの火災の救助にははしご車が出動します。茨木市では12～13階に対応する40m級のはしご車を2台配置しています。市内には最高で15階建が2棟ありますが、11階以上の建物には避難や消火の設備が強化されています。



40m級はしご車



消防犬ラクッキー

消火訓練や救助訓練の指導

各小学校区の自主防災組織で実施される消火・救助訓練の指導を行っています。また、将来の地域防災力の担い手を育成するために、幼稚園児から中学生までを対象に防災教育の授業も実施しています。

防火に関するパトロール・啓発活動

火災予防のため、みなさんの地域を消防車で巡回パトロールをしています。また、消防音楽隊が出初式や安全安心フェスタなどで演奏したり、消防マスコット犬の「ラクッキー」も愛嬌を振りまいたりして、防火・救急について啓発活動を行っています。

地域の消防団

消防団は市内に現在12分団あり、現在の団員数は538名です。地震や火災、台風などの災害時に消火や広報活動に出動するとともに、日ごろは地域の自主防災訓練で初期消火や応急手当の訓練に指導者として参加し、地域の安全安心を守っています。

救急車でのが人や急病人の搬送

救急車の年間出動件数は、平成25年は13,728件で一番多く、26年は13,397件、27年は9月末現在10,567件で、昨年の同時期と比べて726件増加しています。

現在、市内の救急病院は7カ所あります。利用者は軽症が62.4%、中等症が34.9%、重症以上が2.7%です。重症以上の場合は市外にある三島救命救急センターや大阪大学附属病院高度救命救急センターなどにも搬送されることが多くなっています。

搬送件数が近年増えているのは、高齢者の比率が高くなってきていることが主な原因と考えられ、平成26年では65歳以上の利用者が52.9%になります。

救急車の適正利用も問題になっていて、緊急性の低い利用も見受けられます。救急車の台数には限りがあります。いざという時のために救急車の適正利用を心がけましょう。また、119番通報の中には、病院を教えてくださいといった内容もあります。救急に関する相談や病院の問い合わせは「救急安心センターおおさか」を利用しましょう。

「救急安心センターおおさか」に相談

大阪府内全域から、365日、24時間体制で救急医療相談を受けています。相談員、看護師が医師の支援体制のもと、相談に対応しています。状態によって緊急に救急車を呼んだ方がいい場合は、すぐに近くの消防署に出動要請するようになっています。

- 病院に行った方がいい？
- 応急手当の方法は？
- 近くの救急病院はどこ？
- 救急車を呼んだ方がいい？

こんなときは

救急安心センターおおさか

#7119番

または

06-6582-7119

まず私たちにできること

- 住宅火災による死者をなくすために、「住宅用火災警報器」を設置する。（寝室、階段）
※火災予防条例で全ての住宅に設置が義務化されています。
- 放火対策として、自宅周辺にある燃えやすい物を片づける。
- 救急車の適正利用をみんなで考える。
- 落ち着いて119番通報をするために、電話番号や住所などを記入した通報メモを用意しておく。

